

# メキシコだより 6月号

川田 佑樹

ついにメキシコからお届けする最後のレポートになってしまいました。自分のレポートを振り返ってみると、本当にたくさんがこの異国の地で起こり、経験したのだと思います。日本に帰りたい気持ちよりもまだメキシコに残っていたいという気持ちが日々強くなっていきます。最後のセメスターも終えて7月は自由な時間があるので楽しみたいと思います。さて今回はプエブロマヒコに登録されている小さな町への旅行とメキシコ生活の振り返りについて書きたいと思います。

## クエツァラン

この町はプエブラ州の北に位置し、ベラクルス州との境の近くにあるとても小さな町です。この町は知名度が低く特にこれといった特徴がない街ですが紹介していきたいです。この町はメキシコシティからバスに乗って約6時間程度



の山の中にあります。数日滞在しましたが、初日は昼過ぎに到着してから街を散策しました。この写真のような壁画が街中のあらゆる場所がありました。翌日に参加する予定だったツアー会社の方に紹介していただき、その日の午後6時に行われるツアーに参加することができました。そのツアーとは、昨年か今年から始まった企画で、街に壁画家を招待して街の壁に画を描いてもらい、この街の良さなどを壁画を通し

て表現し観光客を呼び込むといったもの  
のです。



2日目は洞窟に入ったり滝を見るなど  
自然に触れてきました。ガイドさんの話  
によると 10 数年前までは洞窟の中がゴ  
ミだらけで整備もされていなかったの

ですが、プエブロマヒコに登録された頃から整備を始めたそうです。また、元々この  
地域の主な産業は農業だったのですが、登録以降環  
境産業に切り替わったそうです。このような成果を  
見ると観光のためにプエブロマヒコ制度を導入し  
たというのは正しい判断だったのかもしれない。  
この企画はまだ続けるといっていたので数年後に  
戻ってきたときに壁画が増えていたら興味深いな  
と感じました。



## メキシコ生活を振り返って

ここまでメキシコでの生活を通じてたくさんの経験をしました。メキシコ人の友  
達もできてスペイン語も上達し、最初に比べたらコミュニケーションを円滑にとれ  
るようになりました。それ以上に今回の留学での大きな収穫はメキシコを肌で感じ、  
実際に自分の目で見たことでした。これはインターネットを通じてできることでは  
なく、また日本では経験できないことなので、大きな財産だと改めて感じます。

もしメキシコの地で勉強や旅行をしてみたいという方や挑戦するかどうかを迷っ

ている方には僕は強くこの国をお勧めします。確かに安全面では良い国とは言えずイメージもよくありませんが、日本ではできない経験、食べられないもの、見られないもの、人の温かさなどが沢山あり、皆さんが想像するようなネガティブな点をはるかに上回るくらい魅力がぎっしり詰まった国なのでぜひ皆さんにも体験してほしいです。